

飯総発第 1137 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

島根県飯石郡飯南町長 山崎 英樹



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のありました標記の件について、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案など

島根県飯石郡飯南町

(1)高速道路と基幹道路のネットワーク化、一体的整備

地方と都市との共生・対流、また二地域居住などを推進する観点から、すべての地域から高速道路ICへのアクセス整備が必要であるとともに、高速道路が通らない地域間を結ぶ基幹道路を一体的、戦略的に整備することによって地方と都市の移動時間を短縮する必要がある。

(2)安全で安心した暮らしを支える生活幹線道路の整備と地方都市へのアクセス整備

都市、地方とも医師不足が顕著になりつつある中で、中山間地域においての二次医療・高度医療は都市部にある中核病院に頼らざるを得ない状況下にある。特に救急医療体制の充実は地方の住民にとって「安全で安心な暮らし」の根幹をなすものであり、30分以内で輸送できる道路網の構築、整備は最重要課題として取り組む必要があると考える。

また、高齢化が進む中で、救急車、消防自動車、福祉車両の通行を積雪や土砂災害など地方の気象条件や立地条件を反映した生活道路の整備が必要である。

(3)災害に強い道路ネットワークの整備

地球温暖化によるとされる想像を超えた集中豪雨、豪雪などの発生が頻繁に起きることが予想される中、災害に強い道路整備のため防災対策の充実、トンネル改良などが必要である。また、万一のためには迂回路の確保など道路ネットワークの充実を図る必要がある。

(4)道路の適正な管理体制の構築

路面舗装の劣化による交通への不安解消や歩道の管理、また交通安全や景観上から法面の除草は必要であり、管理体制の充実や取り組み方針を策定する必要がある。

(5)道路事業評価の見直し

我が国の国土を適切に保存するにあたっては、山村地域住民の果たす役割は大きなものがあるが、当地域においては人口減少、高齢化が進んでいる。従って単に交通量等を指標とした直接的な経済性のみで道路の必要性を判断されるべきでなく、地域の特性を考慮すべきである。

今後の道路行政についての意見・提案

②一 地域の現状と抱える課題

島根県飯石郡飯南町

○現状

(1) 交通の要衝

本町は古くから陰陽を結ぶ中間点に位置し、広島市と松江市、出雲市を結ぶ交通の要衝として栄えてきた。

国道54号を中心として、大田市を結ぶ県道のほか主要地方道路の分岐点もあるが、高速道路の松江尾道線が開通後は交通量の減少が予想される。

(2) 過疎高齢化、少子化の進行

本町の人口は毎年2~3%づつ減少しており、定住対策の歯止めも大きな効果が表れていない。

高齢化も38.3%であり県を大きく上回っている。

少子化も著しく、このまま推移すれば小中学校の統合や県立高校の存続も危ぶまれる。

(3) 産業の衰退

本町の基幹産業は稲作を中心とした農業であるが、米価低落の影響が大きく、畜産の低迷、林業の衰退などと相まって今後の先行きに不安がある。

また、公共事業の大幅な減少は建設業を主体とした地域経済に大きな影を落とし始めている。

(4) 財政の悪化

本町にとって地方交付税は収入の半分以上を占めているが、三位一体の改革などにより交付額の減少が大きく影響している。

行政改革を断行し、一時の危機的状況は脱しつつあるものの、国の動向や経済情勢に注視しながら、更に健全化に努めて行く。

○課題

(1) 高速道路開通後に向け

尾道松江線開通後は、大幅な交通量の減少が見込まれ地域経済に大きな影響があるため、他の地域との差別化を進め、定住の促進、交流事業の拡大など魅力ある地域づくりをする必要がある。

このためには、国道54号はもとより基幹道路の整備により、都市との移動時間の短縮や利便性の向上は必要不可欠である。

(2) 安心して暮らせる町づくり

過疎高齢化、少子化が進行する中で地域力を高め、住民自ら地域を守っていくシステムづくりが必要である。また、医師不足など環境が厳しい中、地域医療を守るために保健医療福祉が一体となった仕組みづくりが必要である。

このためには、町内路線の整備や公共交通の維持、救急医療の存続など道路関連事業の更なる整備充実が望まれる。

(3) 産業の振興

農業が不振の中、稲作においてはエコ米、有機栽培の促進など付加価値を高め、新たな流通販路の仕組みも必要であり、消費者が安心して購入できる产品や特産品の開発、畜産等と連携した地域循環型農業の構築も必要である。

このためには輸送手段が陸路のみの本町では、輸送時間の短縮や地方都市へのアクセスが重要な課題となる。

また、公共事業減少による建設業者の衰退は、本町の冬季間の除雪体制における機械保有力、オペレーター不足を招く恐れが懸念される。

(4) 財政の基盤づくり

中期財政計画に基づいた適正な財政運営に努めるとともに、適正な事務事業、職員数などに務めていく必要がある。

中でも道路特定財源などは自主財源に乏しい本町では、重要なインフラ財源であり、今後も総額は確保することが必要である。

今後の道路行政についての意見・提案

②一2 地域の目指すべき将来像

島根県飯石郡飯南町

(1)道路整備、交通体系について

中山間地域の本町の活性化にとって、国道、県道など主要道路は都市との共生、過疎脱却、若者定住など主要課題解決に向けての大きな要素である。中でも陸路にしか交通、輸送手段がない本町では地域活性化の生命線である。

本町の活性化にとって交流人口の拡大が大きな要素であるが、尾道松江線の開通後の入り込み客、交通量の減少は避けて通れないものと考えており、その対策としてはまずは魅力ある地域づくりが欠かせないものである。陰陽の中間点、中国山地の高原地帯などの立地条件を活かしながら、観光のみならず産業や福祉など全分野、また各種団体や住民の参画を得ながら他地域との差別化を図り、魅力ある地域づくりに取り組んでいくこととしている。

このためには、主要道路の整備、アクセス道路、ネットワーク化は重要な前提条件であるので国や県の道路行政の推進に考慮いただきたい。

また、公共交通については、高速道路の開通に伴い既定のバス路線が変更されると、高速道路が通らない地域では故郷交通の確保が難しい状況も予測される。中山間地域では住民の生活を守るため不採算のバス路線を維持しながら、公共交通の確保に努力している。こうした公共交通機関維持のための支援が必要である。

(2)安心して暮らせる町づくり

高齢化が進展していく本町では、限界集落も現われてきている。このことは、その地域の冠婚葬祭、集落の文化伝承、地域行事の維持などができなくなることにつながり、ひいては町全体の活力低下に繋がるものである。

こうしたことから本町では、地域単位を大きくし、地域は地域住民で守るための組織づくりに取り組んできた。少しづつではあるがそうした動きも顕著になりつつあり、行政ではソフト部門を基本に協働して取り組みを強化していく。

こうした自治組織には、地域の活性化のほかに地域福祉部門も担う機能を期待しており、生活弱者の支援、交通弱者への支援など誘導していきたい。

地域医療の維持には、一地方公共団体としての取り組みには限界があると考えており、県及び地方中核都市などと連携するシステムが必要である。このためには道路を中心とするインフラ整備が基本と考えており、救急医療における短時間で輸送できる体制を構築していく必要がある。

(3)産業の振興

基幹産業である農業は、後継者不足に加えて米価下落による粗収入が減少している。農業、農地の持つ他面的な要素の重要性が言われ、また食の安全性が求められる中で、エコ米、有機栽培の推進、地域循環型農業の確立など少しづつではあるが育ちつつある。

また、地域の産物のPRや特色のある特産品の開発などに取り組んでおり、行政と生産者が一体となって農業の振興に努めて行く。こうした取り組みには、直販システムやインターネット販売など新たな流通システムも不可欠であるほか、輸送時間の短縮などにも取り組んでいく。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

島根県飯石郡飯南町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅を結節点として人の交流や産物の流通 ・道路整備を進めることにより、通勤時間の短縮が図られ働きの場が拡大する。(通勤圏域の拡大) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報発信の拠点となる。 ・地域の特産品の販売拠点となる。 ・地域の産物を使ったレストランの営業 	
・良好な景観の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・国道(歩道)の除草など 地域住民や団体による歩道の除草活動 中学生による国道美化活動 地域住民による散在性ごみ収集活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・定住人口の増加 ・地域住民の参画 ・美しい道路、親しまれる道路づくりの意識の醸成 	
・安心な生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・病院、消防署を結ぶ幹線整備 町内の一自治区(80世帯・250人)は、国道から集落を繋ぐ最短路の町道があるが未整備であり、緊急車両はもとより、通行の大部分が遠回りとなる県道の通行を余儀なくされている。 ・集落と町中心部を結ぶ幹線整備 高齢化が進む集落にあっても、地域住民は住み続ける意思を持ち、農地、山林等の適切な管理に努力している。しかし、道路は未整備の一路線しかなく、通院買い物等の生活維持に不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走行時間の短縮 ・地域住民の安心感の確保 ・転出が減少し、定住が進む。 ・農地の耕作放棄の防止 ・都市交流等地域外訪問者の増加 	